

総合科学部 平成2年卒業
 徳島文理大学音楽学部 徳島文理大学短期大学部音楽科 助教授
原井 俊典 はろいとしのり

自分の専攻にとらわれず 幅広く学ぶことが人生に生きてくる



好きな音楽で 充実した大学生活

原井先生は総合科学部の第一期生。「大学では英語の勉強をしたかったけど、小さい頃からエレクトーンを習っていて、音楽も捨てられなかった。なので両方勉強できるところははないかと探していたら、新しく徳大に総合科学部が出来たんですね。だから決めました」

音楽の制作にも興味があり、大学時代は音楽にのめりこんでいたそうです。だから大学生活をエンジョイする時間もなかったのでは、とたずねると、

「いえ、好きな音楽ができるのだから、それはそれで充実していたんです。しかしエレクトーン以外の楽器はほとんどが初歩からなので、毎日、夜遅くまで練習しました。でも総合科学部は音楽以外の勉強も幅広くできたので、いろんな芸術や他の分野から刺激を受けることができましたね」



科学と芸術の融合、 音楽療法

現在は文理大学の音楽学部で電子オルガンやコンピュータ・ミュージック、そして最近話題の音楽療法などを教えています。

音楽療法は学生にも人気の高いコースで、まだまだ新しい分野でもあり、就職・進学率もほぼ100%だそうです。

古来から音楽が人の心を癒したり、高揚させるという心理的効果を持っていることは良く知られていることですが、それをさらに心理的・身体的・

生理的・社会的に深く広く研究しているのが現代の音楽療法です。それは健康の増強、病気・障害を持つ人の心身の機能回復・改善をはかり、最終的には人生の資質向上をめざす「療法的芸術」ともいえるべきものなのです。

自分の道は自分で考えて、 自分で決める

講義以外にも編曲活動や新しく発売される電子楽器に組み込むデモ曲のプログラミングの依頼など多忙な原井先生だが、学生たちとの「コミュニケーション」も大切にしています。そんな先生から、後輩の皆さんへのメッセージ。

「せっかくの大学時代を大切に。自分で道を選んだのだから、いろいろ悩んで決めてほしい。自分の学部や専攻科目にとらわれずに、自由な学生時代にいろんな分野を見ておくと、将来必ずそれが役に立つ時が来ます。社会に出たら気付くこともたくさんあるはずですよ」